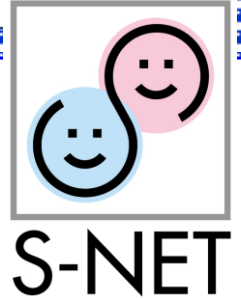


KSK湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞)

広報48号

編集責任者：NPO法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 藤本直也
事務所：〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階
電話・FAX：0467-85-6660 直通電話090-4937-4904 定価30円
ホームページ：<http://www.npo-snet.com> eメール：info@npo-snet.com



❀ みんなでイキイキ S ネット ❀

「権利をまもる」人材育成研修

～ 自分のまちで活動するっていいよね♪ ～

「何かしたいな」と思っているあなた！
今まで培った経験をもとに、「自分を活かす」チャンスです！

【1日目】 9月23日(土) 10:30～16:30

会場：茅ヶ崎市役所分庁舎5階AB会議室

【2日目】 9月24日(日) 10:00～16:30

会場：さがみ農協茅ヶ崎ビル5階大会議室

※ 詳しくは、折り込みチラシで！

参加費 ひとり2,000円(2日分) ※1日参加の方も同額

後援 茅ヶ崎市/茅ヶ崎市社会福祉協議会/茅ヶ崎市社会福祉事業団

主催 特定非営利活動法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン

茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階



市民感覚と法人後見活動

今年1月に亡くなられたHさんのことについてお話ししたいと思います。

およそ15年前、家庭裁判所から任意後見監督人として当法人(以後、Sネットという)が選任されたことがきっかけでHさんとの付き合いが始まりました。

当時、Hさんは市内の特別養護老人ホームに入所されていて、任意後見人として専門職の方がおられました。Sネットもオンブズマンとして施設訪問をしていましたので、Hさんとは顔見知りでした。

任意後見監督人は、ご本人が判断能力が明確な時期に任意後見契約をされ、実際に任意後見人の仕事が必要な状態と判断された時点で任意後見人等が家裁に申し立てをし、家裁によって任意後見監督人が選任された時点から、任意後見が発効します。

被後見人の財産管理や身上監護が適切に行われているかを監督し、報告を(三か月に一度)受け、その状況を家裁に報告するのが任意後見監督人の仕事ではありますが、Sネットはできるだけご本人に直接会って、その状況を把握し、希望を聞くことを大切にしてきましたので、任意後見人の訪問とは別にSネットの担当者が入所施設を訪れ、ご本人にお会いしていろいろなお話を聞き、職員の方からも状況を聞いて任意後見人にフィードバックをしていました。

Hさんはもともと山登りが趣味で自然が大好きな方でした。ずっと、おひとりで生きてこられたので、「私はわがままで」とおっしゃるけれど、それは別の意味では「自分らしさを貫きたい」という意思ととらえ、それを尊重し希望

をかなえたいという姿勢をSネット全体で共有し、各担当者はHさん、職員、任意後見人の方に伝え続けました。

そのうちのいくつかは施設や任意後見人の方の配慮で叶えられ、大好物のマグロの中トロ



を特別食として月に9回も提供していただくこともできました。

また、大好きなステーキは特5クラスの柔らかいものをお誕生日の特別食として出させていただき「生きていてよかった!」「100歳まで生きたいわ!」という言葉まで出ました。それまでは「早くお迎えが来てほしい」と漏らされることもあったのです。



実際、中トロとステーキと施設の手厚い介護、そして医療との連携でHさんは103歳の天寿を全うされました。

任意後見制度の後見監督人としてのSネットの立場から後見人の立場が変わったのは、約3年前です。

任意後見人がご都合で辞任されると聞いた時、Hさんと長くおつきあいさせていただいてきたSネットが法定後見の後見人候補者として適任ではないかと考え、法人後見担当者や法人の正会員全体での協議の場である権利擁護委員会で検討し、申し立ての際、後見人候補者の欄に「特定非営利活動法人湘南ふくしネットワークオンブズマン」と書いていただくよう申し入れをし、裁判所から後見人とするとの審判がおりました。

後見人は、ほぼご本人のあらゆる権利を護り、最善を尽くして財産を管理する立場にあるので、責任は重大ですがご本人そのものの立場を代弁できるという意味では動きやすいと言えます。

後見人就任後、担当者はSネットが「権利擁護」活動の中で「その人らしい生活」を実現することを重視していることに心に留めて、毎月の訪問時の会話や生活状況の把握に努めました。市民としての感覚を失わないようにと耳を傾けました。

車いすで生活されているHさんが「自分の足



で山に登りたい。」という一番の願いを少しでも叶えたいと介護タクシーと外出支援のヘルパーをお願いし、近くの公園や湘南平に出かけ、鳥の鳴き声を聴き、風が緑の木々を渡る音、そして頬をなでる風を感じていただき、おにぎりとお茶で山登りの時の昼食の感じを味わっていただいたこともあります。

山の写真集を持参してお見せすると、Hさんはその山のお花畑がどんなにすばらしかったかを話してくださり、お元気なころの様子をともに思い浮かべることができました。



また、甘いもの、特に小豆の餡が大好きなので夏は水ようかん、春、秋は一口羊羹、冬は懐中汁粉を訪問の際に持参し、職員の方にHさんのおやつの時に食べていただけるようお願いしました。

訪問の度「お元気ですか?」と問うといつも「元気すぎて困るわ」とおっしゃっていたHさんには最後の時まで苦しみや痛みのない、平穏な毎日を送っていただきたいと願っている事をSネットの法人後見会議の中でも確認し、毎日の介護をしてくださっている施設の職員に伝えておきました。

いよいよ、もう残り少ないかもしれないと思われたとき、Sネットの後見人としての意向を

施設の職員は良くくみ取ってくださり、おだやかな最期を迎えられるよう看取ってくださいました。

御身内が全くおられないHさんの葬儀やその後の様々な事務は家庭裁判所の許可を得て、Sネットが執り行いました。法人後見ならではの連携でお寺や納骨するお墓もスムーズに決まりました。

葬儀場の小さな部屋で行われた「お別れ会」には施設の職員が忙しい中、次々とおまいりしてくださり、10年以上に及ぶ施設生活でのエピソードをHさんの枕辺で語り合い、とてもしみじみとした温かいお見送りができました。

桜よりも梅が好きなHさんのために、施設の庭で咲いた梅の一枝をもってきてくださった職員もおられ、改めて大切に思ってくださいたいお気持ちに触れることができました。

今、Hさんは何よりも大好きだった「山」と「自然」が見渡せるお墓に眠っておられます。

一市民としての感覚とそれを大切に思う法人の姿勢、そしてその思いを汲み取り介護のプロとして日々のお世話をしてくださった施設の職員の方々、なによりも「云いたいことははっきり言うけど愛されていた」Hさんのお人柄があって14年余に及ぶHさんへの後見活動は今も私たちに清々しい余韻を残しています。

(Hさん法人後見担当 薩摩 章子)



2017年度 第17回総会(報告)

Sネットの2017年(第17回)総会が、5月27日(土)午前10時から11時30分まで茅ヶ崎市役所分庁舎5階B会議室で開催されました。

理事長挨拶の後、正会員22名中17名出席、委任状3名で、総会成立が宣言されました。

次に高橋佳宏さんが議長に選出され、2016年度活動報告、2016年度決算報告が承認されました。監査報告の後、2017年度事業計画案、2017年度予算案の審議があり、2カ所数字の修正の上、承認されました。

また、理事会より理事増員案が出され、高崎義裕さんが理事に選任されました。



オンブズマン活動から

「その四角は、なあーに？」 「お年玉の袋」
「いくら入っているの？」 「100円」・・・
グリーンガラスでのオンブズマンと利用者Tさんが描いた絵を見ながらの会話です。

グリーンガラスは、社会福祉法人翔の会の中で、自閉症対応の専門性のある支援を行っている施設です。利用者さんのほとんどが自閉症スペクトラムの中に入り、人との関係性を築くところに困難を抱え、コミュニケーションを苦手とする方たちです。角田・江崎コンビで訪問するようになって5年、何とかやり取りを成り立たせることができるようになってきました。

言葉だけではなく、筆談を好む人、文字やイラストを書いてくれる人、写真や今やっている仕事を持ってきて見せてくれる人、サイン言語の人と、職員のカモお借りしながら、その方に合わせた方法でコミュニケーションに励んでいます。鉄道ファンは多く、話題にのれるように鉄道関係の情報に敏感になりました。

また、人と顔を合わせることで自分がストレスになる方も多いので、ガラス越しの様子を見させていただくなどしています。

グリーンガラスは昨年3月に新しい建物に引っ越しました。環境の変化に弱いと言われていた自閉症スペクトラムの人たちです。混乱されるのではと心配しましたが、同じ敷地内で建てられる過程を見ていて引っ越しを心待ちにしていたこと、1階の人は1階に2階の人は2階になど変化を最小限にして負担を軽くする

など工夫をされたことで、6月にはすっかり落ち着いた様子でした。

そして、建物に慣れる事を優先に室内作業を多くして外作業を限定し、慣れたところで、庭に残した「カン工場(カンつぶし作業所)」での作業や街に出たのポスティングを再開するなど、段階を踏んで用心深く障害特性に合わせて計画的に支援されています。



引っ越しを契機に、新しい仕事のルールなども導入され、切り替えるべきところを切り替えて支援をされている様子も見られました。

この3年間ほど、私たちオンブズマンとオンブズマン協力員が協働して取り組んでいることがあります。それは面談の「おわり」方です。

「終了」ができずに不穏状態に陥ってしまう方や居続ける方がおられ、オンブズマンも困り、相談をして、それぞれの方に合わせて、職員に「終わりです。」と声を掛けてもらう、タイマー持参、時計を見る、オンブズマンが紙に「おわり」と書くなど、終わる方法を工夫して継続したところ、今では自分から「終わりです。」と終わる事ができるようになりました。

「通じ合う」ということが、これほど嬉しいことなのだとして深く認識させられるグリーンガラスでの活動です。(担当：江崎)

賛助会員入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員会費
 - ・個人 年額 一〇 1,000円 (一〇以上)
 - ・法人 年額 一〇 5,000円 (一〇以上)
- ◇ご入会の方法：郵便振替書により下記口座へ会費をお振込みください
 - 郵便振替口座番号：00210-9-75496
 - 口座名義人：NPO法人 Sネットワークオンブズマン



【本日は、郵便振替用紙を同封させていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。】

